



くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 田村 潤一

編集担当者 金子 康子

細谷 潤

第21回目のテーマは“ノロウイルス”についての紹介です。

ノロウイルスとは

ノロウイルスは直径25～35nmの非常に小さなウイルスですが、感染力が非常に強く、ごく少量のウイルスでも感染します。ノロウイルスは乾燥した状態でも4℃で60日間、20℃でも3～4週間生存出来ると言われています。また、一度感染すると症状が改善しても1週間から長い場合は4週間にわたって糞便中にウイルスを排出することが、ノロウイルスが広がりやすい原因と考えられています。ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は一年を通して発生していますが、特に冬期(11月～4月頃にかけて)に流行します。

感染経路



ノロウイルスの感染はほとんどが経口感染(口から体内に入り感染)であり、次のような経路があると考えられています。

- ①ウイルスに汚染された貝類を生あるいは十分に加熱しないで食べた場合。
- ②調理台や調理器具がウイルスに汚染されていたり、ウイルスに感染した人が食品を取り扱うことにより、二次的に汚染された食品を食べた場合。
- ③感染者を看病したり、患者の吐物、便などから直接感染するヒト-ヒト間の感染の場合。

症状



潜伏期間(感染から発症までの時間)は24～48時間で、主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛で発熱は軽度です。通常これらの症状が1～2日続いた後、治癒し、後遺症もありません。また、感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。しかし、体力の弱い乳幼児、高齢者は症状が重症化することもあります。また、ごくまれに嘔吐した物を喉につまらせて窒息することがありますので注意が必要です。

治療法

現在、このウイルスに効果のある抗ウイルス剤はなく、抗生物質も効果はありません。体力の弱い乳幼児、高齢者は脱水症状を起こしたり、体力を消耗したくないように、水分と栄養の補給を充分に行いましょう。通常症状に応じて、吐き気を抑える薬や胃腸を整える薬などの飲み薬や、脱水症状がひどい場合には病院で輸液を行うなどの治療が必要になります。下痢止めの薬は病気の回復を遅らせることがあるので使用しないことが望ましいでしょう。

予防法

日頃からの予防法としては、食事前やトイレの後などにおいて、石鹸を使ってしっかりと手を洗うことが大切です。食品中のウイルスは加熱により感染性をなくすことができます。食品の中心の温度が85℃1分以上になるようしっかり熱を通して食べましょう。下痢や嘔吐などの症状がある人は食品を取り扱う作業を控えましょう。



二次感染を防ぐために

患者の下痢便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれていますので、その処理には十分注意する必要があります。汚物を処理する際にはマスクや使い捨ての手袋を使用するようにしましょう。

ノロウイルスに対しては、エタノール(アルコール製剤)や逆性石鹸はあまり効果がなく、次亜塩素酸ナトリウム※(塩素濃度 200ppm～)、加熱に効果があります。調理器具等は洗剤などを使用し十分に洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウムで浸すように拭くことで予防できます。また、まな板、包丁、へら、食器、ふきん、タオル等は熱湯(85℃以上)で1分以上の加熱が有効です。

※塩素系の漂白剤(使用にあたっては「使用上の注意」を確認しましょう。)



次回は、2011年12月発行予定です。

参考

厚生労働省 HP <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.htm>

国立感染症研究所感染症情報センター HP <http://idsc.nih.gov/jp/disease/norovirus/taio-a.html>

広島県保険対策協議会 HP <http://citaikyo.jp/200612NORO/NOROMANYUARU.htm>